

2025年度 岡山県内の 幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程 卒業生調査 結果概要



岡山県における保育人材の確保・定着および卒後支援の充実を目的として、県内8大学の幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程保育者養成課程を卒業した方を対象に、アンケート調査を実施しました。本リーフレットでは、その調査結果の概要をご報告します。調査にご協力いただいた卒業生の皆さまに、心より感謝申し上げます。

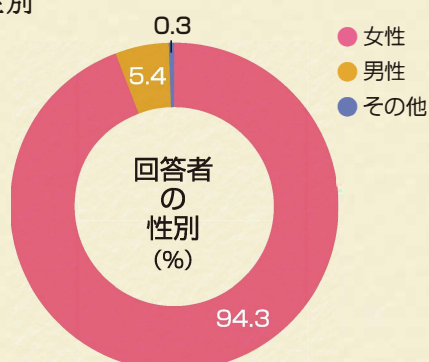


調査の概要

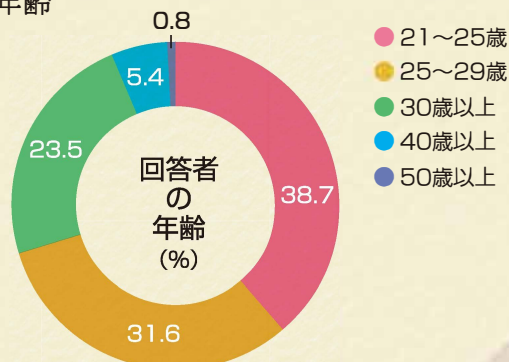
- 調査対象 岡山県内8大学の幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程卒業生
(岡山大学、岡山県立大学、新見公立大学、就実大学、就実短期大学、中国学園大学、環太平洋大学、倉敷市立短期大学)
- 調査期間 2025年12月～2026年1月
- 調査方法 Googleフォームによるwebアンケート調査
- 回収数 613

回答者属性

性別

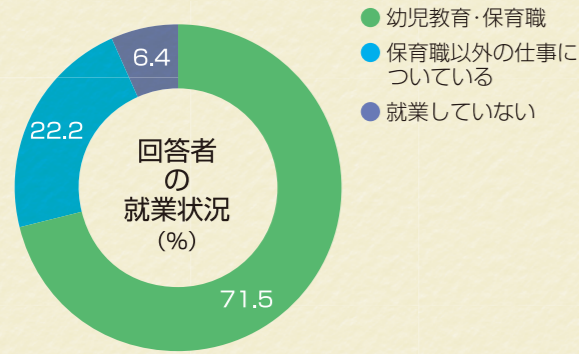


年齢

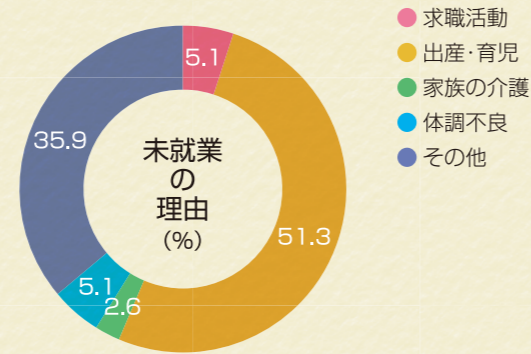


就業状況について

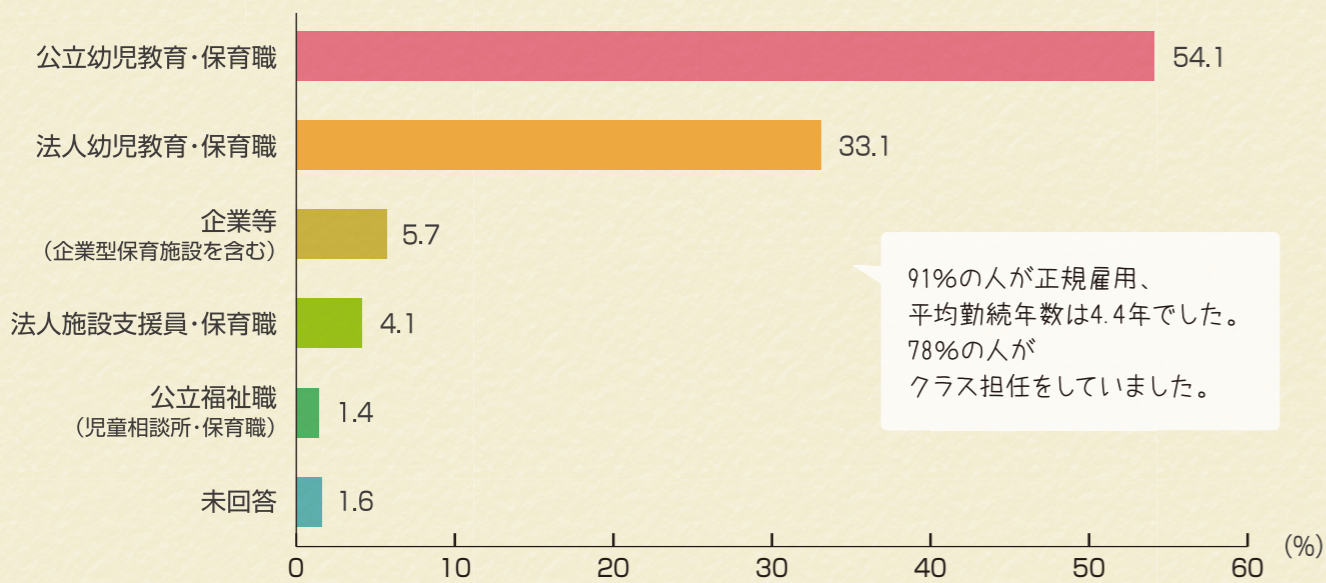
回答者の就業状況 n=613



未就業の理由 n=39

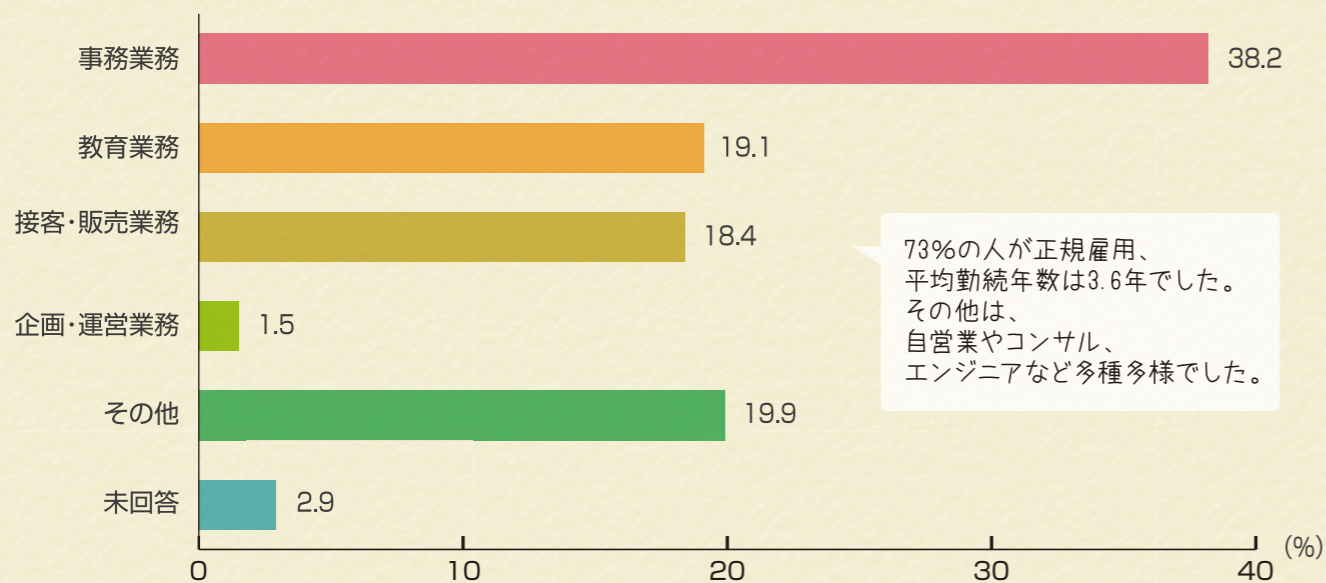


幼児教育・保育職の人の就業状況 n=438



91%の人が正規雇用、平均勤続年数は4.4年でした。78%の人がクラス担任をしていました。

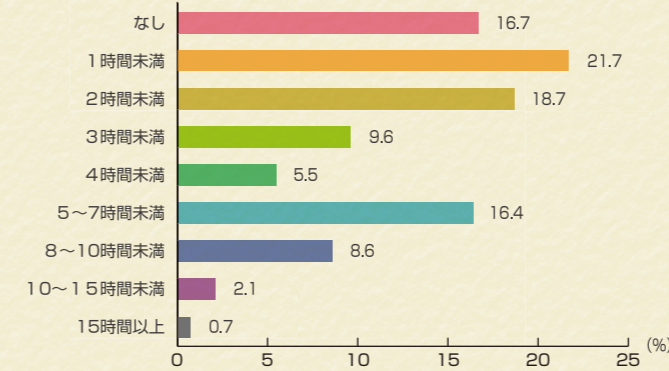
保育職以外の人の就業状況 n=136



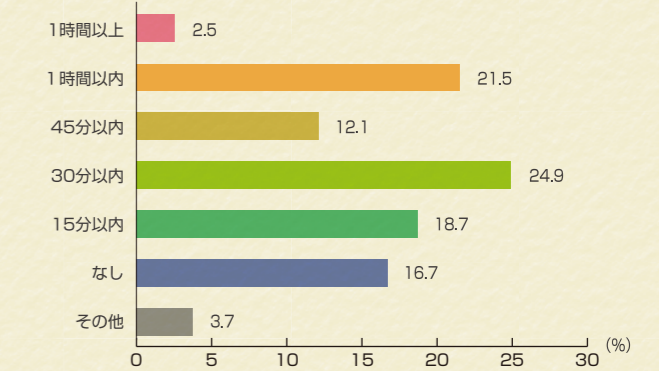
73%の人が正規雇用、平均勤続年数は3.6年でした。その他は、自営業やコンサル、エンジニアなど多種多様でした。

保育職の人の労働環境について

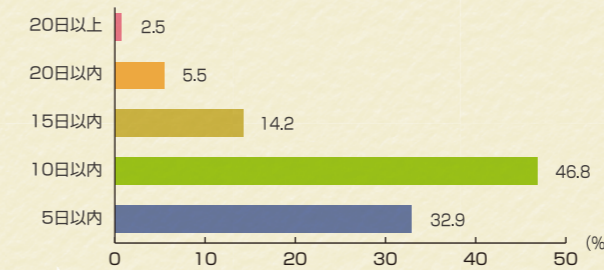
1週間の平均残業時間



実際に取れる休憩時間

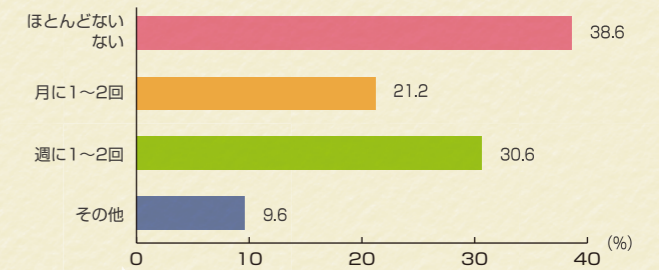


2025年に取得した有給休暇



以前に比べると、保育職の働き方改革も進んできているみたいですね。

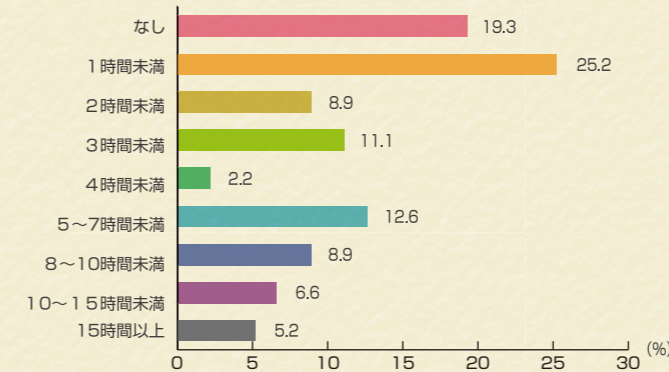
持ち帰りの仕事の頻度



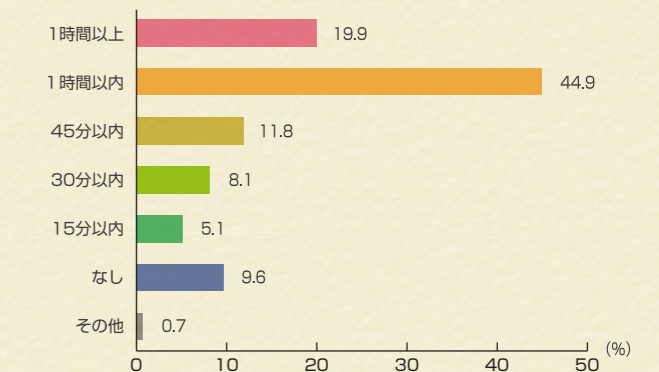
担任をしつつ、無理なく休憩時間を確保できる環境整備が課題ですね。

保育職以外の人の労働環境について

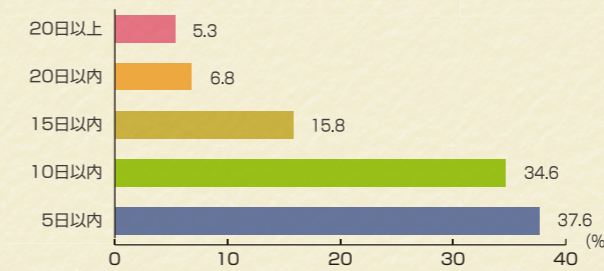
1週間の平均残業時間



実際に取れる休憩時間

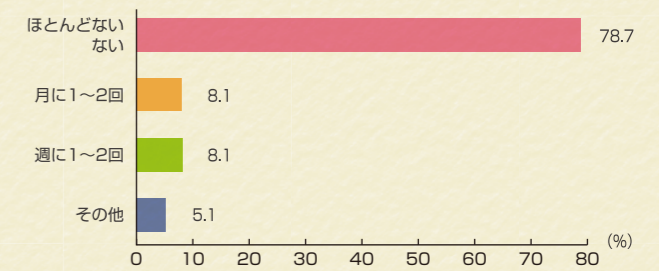


2025年に取得した有給休暇

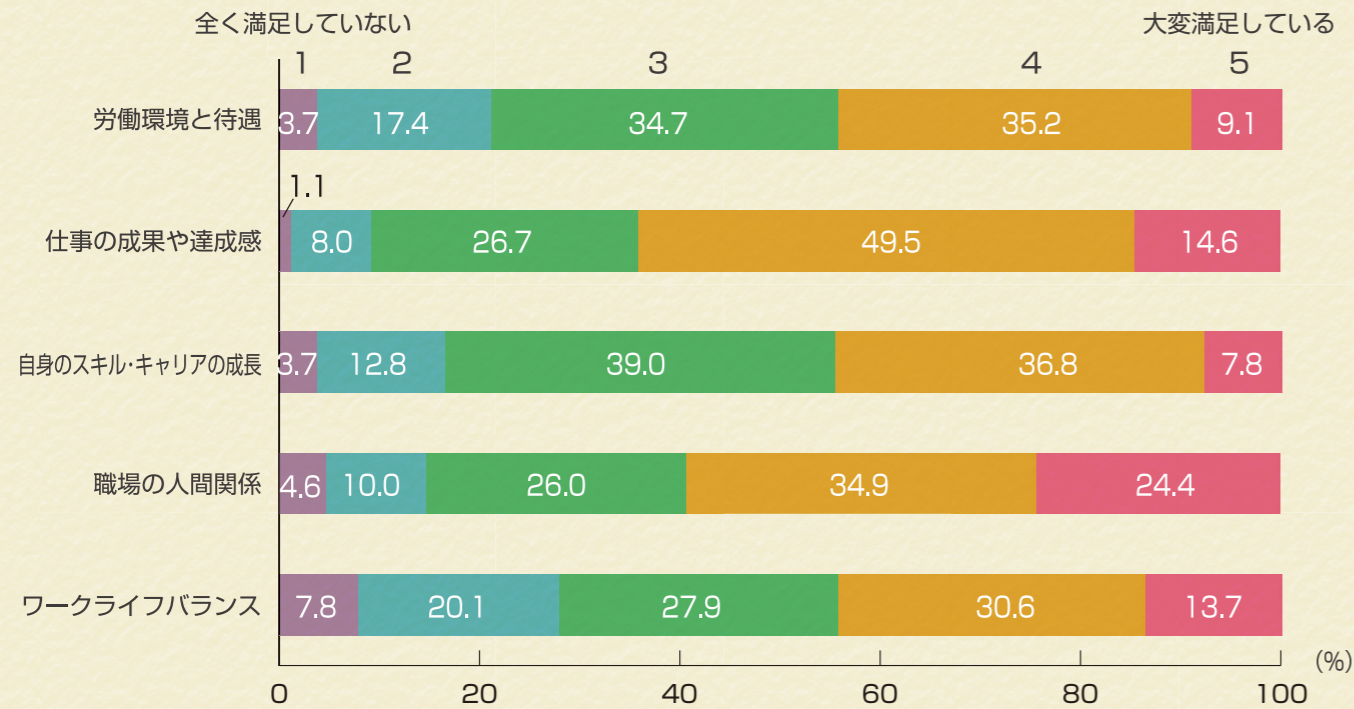


正規雇用と非正規雇用で、労働環境に差がありそうですね。

持ち帰りの仕事の頻度



保育職の人の 就職先の満足度について



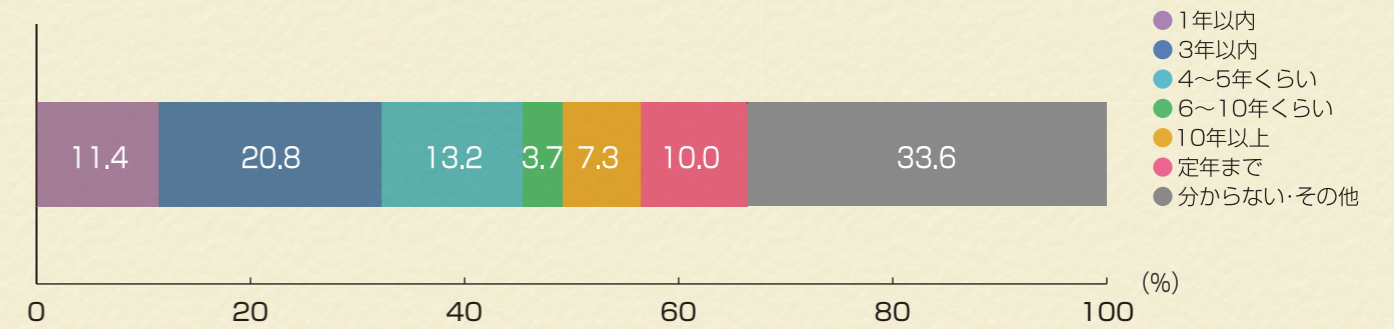
楽しいこと、うれしいこと、 充実感を感じられること

- 対象者の成長・変容** ● 子どもの成長を間近で一緒に見守れること ● 何気ない日常の中で子どもたちの小さな成長を感じられること ● 子どもが「幼稚園楽しい」と言ってくれること ● 行事の際の子どもたちの頑張りや成長を間近で見ることができること
- 対象者との関係性** ● 子どもがかわいい ● 子どもたちと思いきり遊んで楽しんだとき ● 子どもの笑顔が見られた時や「先生、大好き」と言われたとき ● 子どもの成長を保護者の方と確かめ合えたとき
- 他者からの承認・評価** ● 保護者の方からお礼の言葉を頂くこと ● 保護者に「この子先生のことが大好きで」と話されること ● 担任が先生で良かったと言われたとき ● 子どもや保護者に信頼されていると感じること
- 業務達成・成果の可視化** ● 子どもが、用意した遊びの環境や教材を楽しんでいる姿が見られたとき ● クラスで一緒にやり遂げられた達成感を子どもたちと感じられたとき ● 書類などの仕事の期限を守りこなせたとき(山積み)
- 専門的能力向上・自己成長** ● 子どもの反応や気持ちを読み取れるようになったと感じたとき ● 自分が工夫したことによって子どもの遊びの様子が変わったとき ● 子ども理解や保護者理解が深まったとき
- 職場内人間関係** ● 職員同士で子どもの可愛いところや成長等を共有できる点 ● 仕事を担任間で分担でき負担なく仕事を進められる ● 仕事が上手く進められなかった際に励ましや具体的な対策を伝えてくれる点

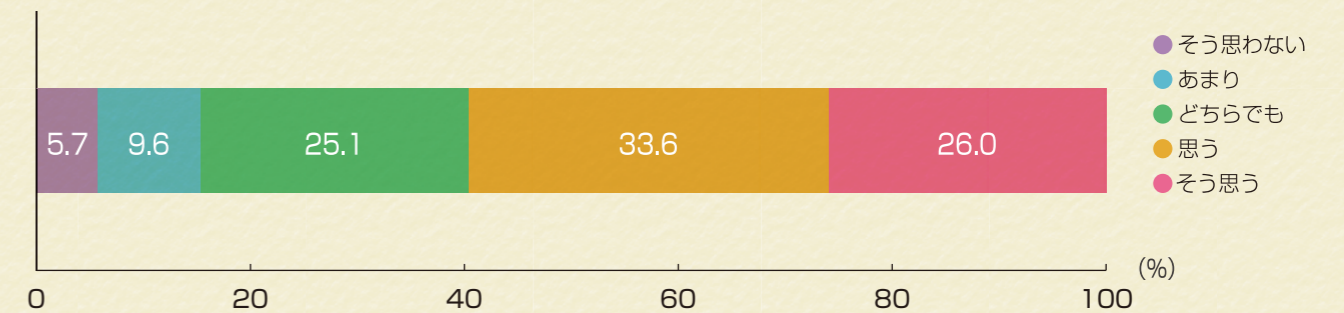
不安なこと、悩んでいること、 つらいこと

- 職場内人間関係** ● クラス担任の人数が増えると保育感の違いから思うように保育ができない ● 先生たちからの愚痴をよく耳にし、「そうじゃない?」と同意を求められる ● 上司の人間関係が良くない ● 同期がいない
- 業務量・人員不足** ● 残業や土日に持ち帰りの仕事をしないと、仕事が進まない ● ギリギリの人数で保育をしていて何かあった時が怖い ● 職員1人ひとりの仕事の負担が大きくなっていることに不安を感じる ● 事務作業が多い
- 労働条件・待遇** ● 休憩がないこと、連休が取れないこと ● 年休が取りづらい人員配置 ● 子どもたちの命を預かる責任の重い仕事であるにもかかわらず、給料が見合っていない ● いつまで非正規雇用で働き続けるか
- 対象者対応の困難** ● 様々な支援が必要なお子さんや場面が多く感じる ● 配慮の必要な子どもとの関わり方、それを踏まえたクラスの運営の仕方 ● 保護者対応、発達に関する保育内容に関しては悩みが多い ● 言語の壁(海外在住、幼児教育者)
- 自己効力感・力量不安** ● 自分の関わり方が、目の前の子どもにとって良いものなのかどうか、正解がないため不安になる ● クラスが上手く回らず、子どもの接し方が分からないときに保育士が向いているのか不安になる ● 先輩への教育の仕方や、注意の仕方などに悩んでいる
- 家庭・育児との両立** ● 妊娠中の働き方・育児復帰後の働き方 ● 我が子の体調不良で急にお休みをいただくこと

保育職として現在の職場であと何年ぐらい働こうと思いますか



保育職として今後も働き続けたいと思いますか



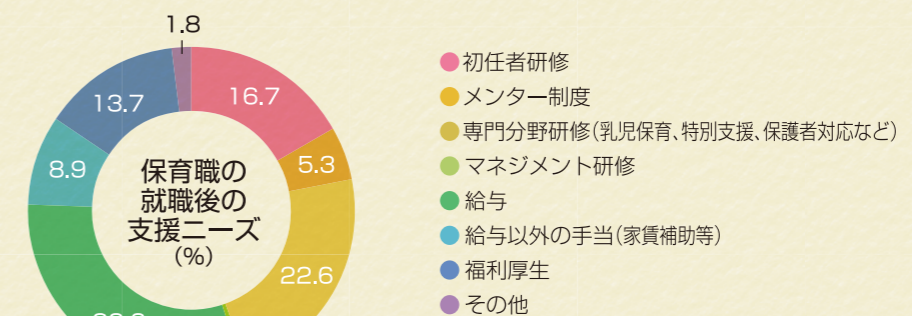
継続して 働きたいと思う理由

- 感情的意味づけ** ● 子どもがかわいい ● 子どもと関わることが楽しい ● 保育は正解がなく面白い ● やりがいがある
- 関係的な基盤** ● 職場の人間関係が良く意見が言える ● ベテランから学べる ● 情報共有や連携が取れている ● 助け合いながら保育できる
- 制度的な基盤** ● 給料が安定している ● 昇給がある ● 家賃補助がある ● 休暇のとりやすさ ● 産休育休制度は利用したい ● 育児短時間制度を利用予定 ● 研修制度が充実
- 成長・発達実感** ● 楽しい保育を思いつくようになった ● 経験を積み重ね保育の楽しさを感じる

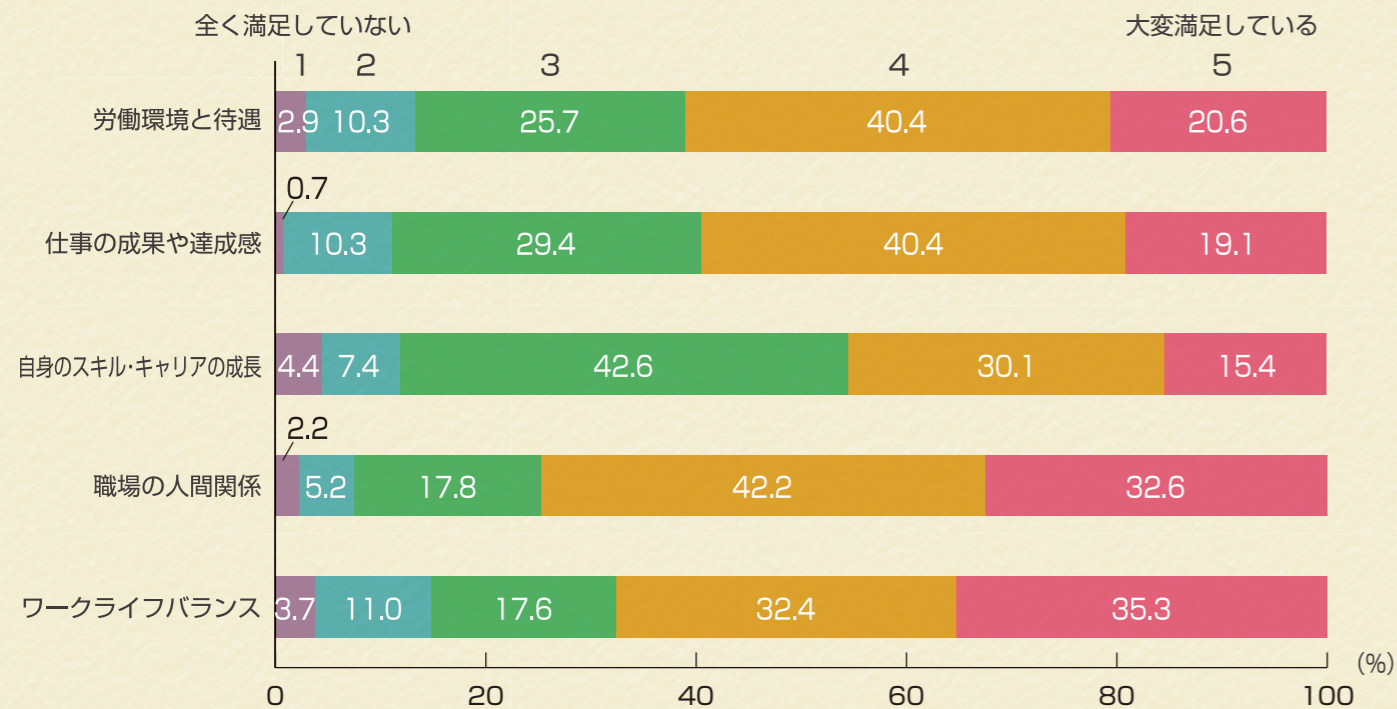
継続して 働くことが難しいと思う理由

- 過重労働・健康負荷** ● 職員不足で仕事量増加 ● 残業しなければ終わらない ● 体力が追いつかない ● 責任が重い ● 休憩時間も仕事 ● 身体の不調・ストレス・疲労
- 家庭と仕事の両立** ● 将来子育てと両立できるか不安 ● 現在の勤務形態では子どもを育てることが難しい ● 子どもが小学生になったときの働き方 ● 結婚で勤務地変更
- 組織・関係の葛藤** ● 人間関係がづらい ● 職員にも保護者にも気を遣う ● 相談できない ● 上司との関係
- 制度的不満・待遇問題** ● 仕事量に給料が見合わない ● 残業代が出ない ● 有給が取りづらい ● 正規と臨時の格差

保育職の就職後の支援ニーズ



保育職以外の人の 就職先の満足度について



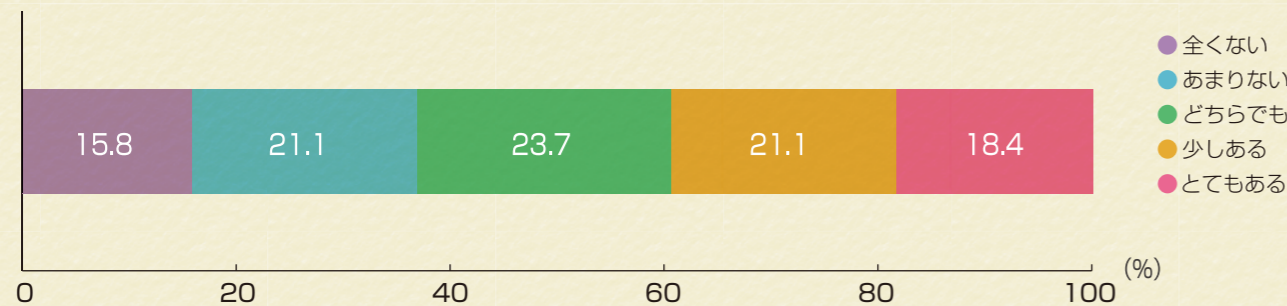
楽しいこと、うれしいこと、 充実感を感じられること

- 他者からの承認・評価 ● お客様から感謝の言葉 ● 組織に結果を評価された ● 地域の方に喜ばれる
- 対象者の成長・変容 ● 児童が楽しそうにしている ● 子どもが「わかった」「面白い」と言う時 ● 児童・生徒の成長に携わる瞬間
- 業務達成・成果の可視化 ● 目の前のタスクを遂行できた ● 自分の力で問題解決できた ● 業務手順改善がチームで活用された ● 顧客の売上に貢献している実感
- 専門的能力向上・自己成長 ● 新しいスキルを習得できた ● 新しい知識が身につく ● 色々な仕事に挑戦できる

不安なこと、悩んでいること、 つらいこと

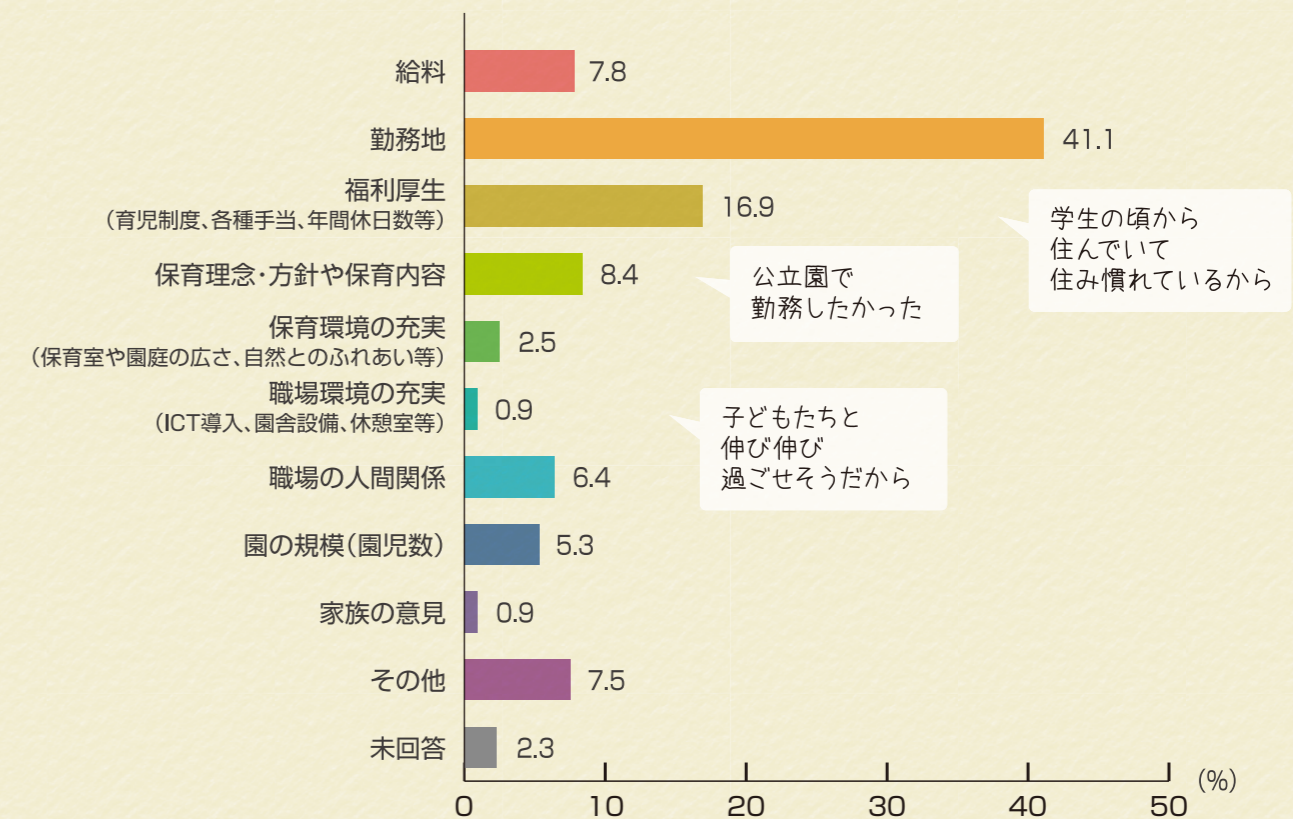
- 自己効力感・力量不安 ● 営業製品の専門知識不足 ● 分野知識不足、法令解釈に時間 ● 自分の思うように仕事を進められない ● スキルアップができない
- 労働条件・待遇 ● 正規雇用ではないため将来に少し不安 ● 募集要項と異なる勤務地に配属 ● 給与が少ない ● AIやアウトソーシングで仕事が奪われる不安
- 業務量・人員不足 ● 仕事量、残業が多い ● 休みが少なく遠方に出ることも多い ● 勤務時間外も対応が必要な時がある
- 職場内人間関係 ● 同僚との人間関係(年齢差や転職者との接し方) ● 先輩の機嫌がいい時と悪い時がある

未就業の人の 今後、保育職に就く希望

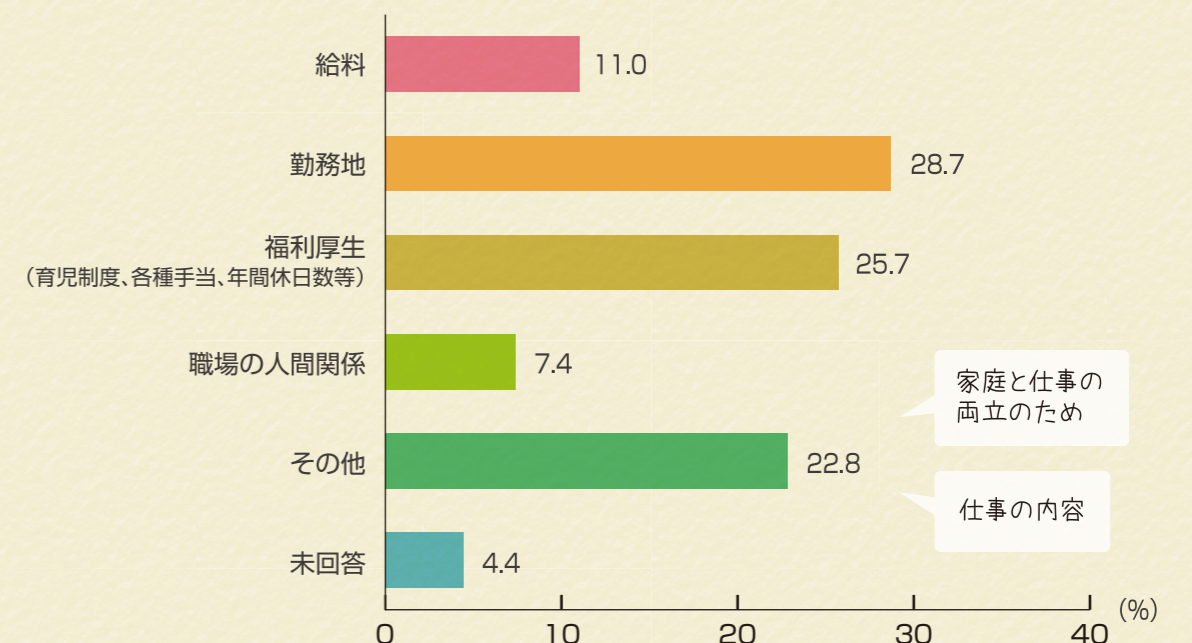


就職活動について

保育職:現在の職場を選択する際に最も重視した決め手



保育職以外:現在の職場を選択する際に最も重視した決め手



本調査について

■ 調査のまとめ

本調査では、岡山県内の幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程の卒業生を対象に、就業状況、仕事の満足度、継続意向、ならびに将来の保育職への就業意向について整理しました。保育職として就業している人、現在は保育職に就いていない人の双方の実態が明らかになりました。

■ 本調査の位置づけ

本調査は、岡山県内の養成校が連携して実施した、卒業生を対象とする初の全県的調査として位置づけられます。国立・公立・私立、四年制大学・短期大学を含む8大学の協力により実施されました。

■ 今後に向けて

本調査結果は、今後の保育人材の確保・定着や、養成段階における支援のあり方を検討する際の基礎資料として活用されることが期待されます。引き続き、継続的な調査や関係機関との対話を通じて、議論を深めていくことが重要です。

2025年度
岡山県内の幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程卒業生調査

保育者養成課程大学卒業生調査実行委員会
(岡山大学、新見公立大学、就実大学、就実短期大学、中国学園大学、環太平洋大学、倉敷市立短期大学、岡山県立大学、岡山県こども未来課)

本調査報告概要は、令和7年度岡山県立大学地域連携事業費の助成を受けて作成した。

岡山県立大学倫理審査委員会承認番号25-51

2026年3月発行